

特別
座談会

ニューヨーク大学で学んだ歯科医師からのメッセージ
信頼性の高い
インプラント治療



インプラント治療は、失われた歯の代わりに人工の歯根（インプラント）を埋め込み、その上に人工の歯を取り付ける治療法だ。歯科医院では衛生管理を徹底し、患者一人ひとりに合った丁寧なインプラント治療を心がけている。そこで、ニューヨーク大学（NYU）CDE（Continuing Dental Education）プログラムでインプラントをはじめとする先端治療を学んだ歯科医師の先生方にご参加いただき、渋谷歯科タナカの田中健久院長の司会で「信頼性の高いインプラント治療」をテーマに語っていただいた。



日本大学客員教授
医療法人社団 飛優会 優ビル歯科医院
林 揚春 理事長
ニューヨーク大学1期生

ニューヨーク大学の
プログラムへの思い

田中 健久 院長
ニューヨーク大学5期生
私には歯周病専門医でしたので、当初20年ほど前、インプラント



渋谷歯科タナカ
田中 健久 院長
ニューヨーク大学5期生

治療は歯周治療のオプションの一つとして考え、実施してきました。インプラントが予知性の高い治療方法であるならば、歯周病に罹患し歯槽骨を失った予後が不明確な歯を削ってブリッジなどの補綴処置をするのではなく、また健康な天然歯を削って不可逆的なダメージを加えることなく、しかも、そのインプラントに適切な咬合圧を付与させることができれば、歯がない場所の治療はその部位だけにインプラントを埋入するだけで終わらせることができます。しかし、インプラント治療はインプラントを埋入して終わりではなく、インプラントも天然歯も同じようにその周囲に歯周組織が存在するわけですから、ペリインプラント炎（ペリインプラント周囲炎）に罹患しないとは限りません。その管理をどのように考え、実際にどのようなケアをしていけばそのリスクを可及的に軽減させ、より長期開口腔内で機能し、QOL（生活の質）の向上に寄与できるかを、インプラント先進国であるアメリカの



医療法人社団 菅井歯科医院
菅井 健二 理事長
ニューヨーク大学1期生

その中でもバイオニア的存在であったニューヨーク大学で実際の臨床を通して知りたかったのです。深沢 このプログラムを推進しているケイト・マツモトさんとは、以前からの知り合いでした。第一回は、ペリオインプラントプログラムとあって、ペリオが入っていました。2回目以降、ペリオがはずれてインプラントプログラムになりました。プログラムが終了したときは、卒業修了書をいただきました。西川 最初はNYUまで行かなくても十分かなと思っていましたが、私が参加している歯科医師のための教育機関であるPGI（プラクティカル・ナソロジー・インスティテュート）の勉強会の仲間がみんな行くようになったため、申し込むことにしました。いろいろな情報が入り乱れて日本に入ってくる中で、何が正しいかを知りたいという欲求がありました。雑誌に登場するような先生が講師になり、話を直に聞くことができるの、いいと思いました。

本場の先生に師事し
自分の「武器」をつくる

森岡 一番の理由は、林先生をはじめ日本のトップクラスの先生方が行っていることです。そうした違う次元を、直接行って見てみたいというのが大きかったと思います。NYUは、上を目指したいという人が集まるところで、お互いに刺激し合えるのではないかなと期待もありました。選択肢とし



医療法人社団 審美会
銀座矯正歯科
深沢 真一 院長
ニューヨーク大学1期生

では、とても良かったと思います。飯山 以前よりNYUのプログラムがあることは認識していたのですが、コスト面とプログラム期間がネックにあり、二の足を踏んでいる状態でした。しかし、自分の臨床を振り返り、それを勉強するために海外の先生方の考え方に引きつくことがわかりました。「この先生の治療を見てみたい」「あの先生の講義を受けてみたい」と考えているとNYUの講義に行きつき、いつの間にか申し込んでいたというのが現状でしょうか。田中 学生時代にUCLA（カリフォルニア州立大学）へインプラントを見学しに行き、通常歯のないうところに人工歯根を埋めるインプラントの素晴らしさを知りました。このとき留学したかったのですが、開業をして資金的に余裕がなかったからかと思いき、2008年にそのチャンスがめぐってきたわけです。国内の勉強会はある程度行っていたことがあるので、海外の治療がどんなものか見てみたかったという理由です。



医療法人社団 西友会
西川歯科医院
西川 洋次 理事長
ニューヨーク大学5期生

丹野 NYUに最初に行ったときは開業して1年目くらいだったので、これからの時代は予後とかインプラントをしっかりやらないとだめと思っていました。やるなら本場のものを体験したかったという理由です。吉見 さまざまな講習会やセミナーに参加しましたが、情報に違いがあったりして、誰を信じていいのかわからなくなりました。そのとき、できるだけ本場の先生の話を知りたいと思っていました。歯科医師としての志がないから情報に感化されるのであって、それに負けないしっかりした「武器」を作ろう

NYUの魅力と
体験して学んだこと

田中 NYUの魅力と体験して学んだことについては？
林 自分の症例と向こうの症例を比べてみると、保険制度の違いがあります。向こうはほぼ自費診療です。医療ミスによる訴訟の多い



西大津歯科医院
森岡 千尋 院長
ニューヨーク大学5期生

国です。だから、どうやって自分を守るかということも考慮しなければなりません。日本には保険制度があります。UCSLAの先生と話したときに、「歯をなぜ抜かないで残すのか」といわれました。40歳代の女性で歯を全部抜いたのを見て全然としたりしました。彼らは日本の保険制度を知らないから、なぜ残すかがわからなかったようです。その違いがすごく勉強になりました。

菅井 アメリカでは医療制度の違いもあり、抜歯のクライテリア（基準）が日本と全く違っていますよね。歯周病治療によって十分保存可能だと判断できるような歯でも、インプラントのための戦略的抜歯の名の下に安易に抜いてしまします。患者さんが何を求めて私たちが頼って来ているかを考えると、安易に歯を抜くことは許されないと私は思います。だから逆の意味で勉強になりました。戦略的抜歯を含め、抜歯の基準をどこに求めるかエビデンス（科学的根拠）を十分深める必要性を再確認しました。

目標は快適な食事をしてもらうためであり、私たちが歯科医師はそれを補助していかなければいけないと思っています。

森岡 日本のトップの先生がやっていることとNYUの講師の先生のもの比べてみると、日本の先生は上手だなと思います（笑）。それだけすごい先生が日本にはたくさんいます。

それと自分の歯に勝るものはないというのは真理であることも再確認しました。治療すればきちんと機能の回復が望める自分の歯を抜いて幸せになる人はいないといえるのではないのでしょうか。

西川 私が大学を卒業するとき、NYUのリンコー先生のインプラント治療が目玉になっていました。インプラントは本来、患者さんに快適さを与える一つの手段だと思っています。ただ、誰もがインプラントに飛びつきますが、マネジメントが先に来て最終目標が後になる傾向があります。何でこの歯を抜くのかということも含めて、最終



赤坂通りデンタルクリニック
福島 一隆 院長
ニューヨーク大学2期生

目標は快適な食事をしてもらうためであり、私たちが歯科医師はそれを補助していかなければいけないと思っています。

森岡 日本のトップの先生がやっていることとNYUの講師の先生のもの比べてみると、日本の先生は上手だなと思います（笑）。それだけすごい先生が日本にはたくさんいます。

深沢 外国に行くのは、情報収集と雑誌とかビデオでしか見たことがない一級級の先生とのコンタクトに尽きます。日本ではなかなか会えない人たちと会えるのが一番です。10年ほど前、初めてNYUにいったとき、日本ではインプラントが系統だって勉強されていませんでした。だから、プログラムがスタートしたとき、受けに行くのは当たり前のことでした。より新しい情報を、また聞きではなく本人から直接聞くことができるというのはいいですね。



いいやま歯科医院
飯山 浩靖 院長
ニューヨーク大学6期生

で直接講義を聞くことで臨床に直結する有効なエビデンスや技法を学ぶことができたと思っています。

世界から集う人材と世界の一番を見る

飯山 感覚で治療しないことを強く学びました。治療は、過去の臨床や研究の成果であり、それに基づいて行うということ。そこに経験などが存在はしますが、エビデンスからの治療を行うことの重要性を学ぶことができました。

村木 そうですね、多くの研究や症例数を誇るNYUのプログラムでは、感覚に頼らない、実績のあるテクニクを基礎理論から体系的に学ぶことができたと思います。それにより、自分自身の中でのインプラントに対する信頼性がより確実なものになったと感じています。

アとなるものを探すためにNYUに行きました。日本では味わえないようないろいろな国の風を受け、日本の保険制度とか、一本の歯の大切さを感じました。

林 ニューヨークには、世界各地から人材が集まります。カリフォルニアに対しての対抗意識も相当なものです。同じ国で、これだけ対抗意識があるのは面白いと思っ

ています。それから東洋人に対して、ある種の偏見があるということも感じましたね。

田中 アメリカ人の日本人への感覚はベリー以来変わっていないと思っ

ています（笑）。アメリカの中でも日本人の医師や歯科技工士が活躍しています。ただ、そこまでいくには相当な実力があるのだという厳しい現実を感じました。NYUでは、各分野のスタディーグループのトップが集まって、討論しているように感じます。そうした中で、自分の見識を広げられたのがメリットですね。

吉見 日本人はできていないことに工夫を加えるのが上手ですが、何



えんどう歯科クリニック
遠藤 為成 院長
ニューヨーク大学4期生

もないところからつくって、創造していくという部分では負けていると思っ

中国やルーマニアなど世界各地で学ぶ機会が

丹野 世界に先駆けてインプラント科をつくったNYUで学びたいと思っ

遠藤 確かにNYUプログラムでルーマニアや中国に行つて学べたことは大きいですね。

その道の一流の人は、私たちにない何かがあります。ニューヨークは世界で一番のものが集まっています。それを見るのができてよかったですね。

森岡 リー先生のような一級級の先生のオフィスを見学できたのもすごいですね。

吉見 ただ海外に出て行って勉強するというのは、既成概念を崩そうという心意気を持って参加することが大事です。現状に満足することなく、上にいこうという意志が必要です。

2年半にわたる長期のプログラム

田中 NYUプログラムは、2年半にわたって現地に足を運ばないと取得できないプログラムです。

丹野 3日や1週間のコースだと、旅行気分で行つて終わるというところにもなりかねません。今回のプログラムを通して、2年半という長い期間でしたが、海外の実状を把握しながら診療するということができました。日本と海外の歯科

医療の差を実感できたのがよかったと思います。

田中 世界中から集まってくる人たちも、レベルの高い先生が多いですね。

吉見 そういふすごい先生方はみな試行錯誤しています。地道に研究し、基礎からやろうとしています。それがとても勉強になりました。

田中 それからリサーチ科というのがあります。あれは日本の発想にはない科ですね。文献だけリサーチして統計を出しています。新鮮でいいと思いました。

田中 NYUでは先人観なくメーカールのインプラントの精度などを見ることもできます。それがいいと思っ

丹野 「日本で、これが最新」という情報が、実は8年前のリサーチだったということもあります。NYUではほんとうに最新のものを聞いてみて、日本の情報が遅れていることを認識しました。

丹野 日本の歯科医療は、アメリカから発信された情報をいち早くまねてやっている部分が多くありません。これからは、日本から発信できるようにしなければいけません。

遠藤 NYUで学ぶのは2年半という長いコースです。そこで学ぼうとするためには、関係している先生たちの土台がしっかりしていないと学べません。なおかつ世界に羽ばたきたいと思っ

田中 日本の医療が良くないのは、大学に問題があると思っ

吉見 ベリーが来航したときから日本は後手後手にまわっていますよね（笑）

うのを教えないといけません。ただ、現状はアメリカの大学は最先端ですが、日本の大学は最先端をいっていません。

森岡 インプラントに関しては、大学より開業医のほうが優れているという見方もあります。大学では、なかなか臨床研究が観付いていません。私の同期が大学の教授になります。そうした連中が大学を変えていくことができればうれしいですね。

吉見 大学で臨床経験のあまりない先生に教えてもらうから、たとえば歯が抜ける理由がわからなかったりします。

森岡 NYUでは教えている先生も、学生の訴えや状況を聞いて、より内容を充実させようとしています。臨床プログラムがしっかりしています。

田中 アメリカは、卒業するまでがむずかしいですね。臨床で大学院へ行くと、何千という論文を読んで仕上げないといけません。プログラムは日本の先を行っ



医療法人社団 宝樹会
西川歯科医院
佐藤 弘樹 理事長
ニューヨーク大学5期生



医療法人 ゆたか会
丹野歯科医院
院長 丹野 努
ニューヨーク大学5期生

インプラント自体は一つの手段にすぎません。患者さんの幸せというゴールに向かって何をどう使うかは一人ひとりの歯科医に委ねられていますから、だからこそしっかりとしたものを身につけて、提供できるように、歯科医だけでなくスタッフみんなが常に自分達を磨いていく姿勢をもっていることが大切だと思っています。

佐藤 まずCT撮影を含め、患者さんの全身状態から口腔内の状態まで、患者さんときちんと情報を共有し、一歩一歩治療を進めていくことです。

丹野 患者さんから見ると、インプラントは本当に大丈夫なのかという意見もありますが、歯科医から見ると、インプラントはすでに成熟期に入っており、持つべきではないかの議論はすでになく、どうやったらより早く、より正確にできるのかを議論する段階に入っています。インプラント治療は、今までの治療に比べて革新的に良い情報が蓄積されているので、正しい情報を伝えていきたいと思っています。

田中 これからどういった歯科治療を目指していきますか。

林 患者さんが信頼して治療を受けられる環境を提供しています。第2の永久歯とも呼ばれるインプラントの治療や矯正治療など、歯の最適な治療を通じて患者さん一人ひとりが人生を楽しめるよう、健康管理のお手伝いをします。治療を始める前に、病状の状態と治療法を説明しますが、治療に際してわからないことがあれば、医師やスタッフに遠慮なくお尋ねいただけるようにしています。

菅井 現在、当院を受診される方の大多数が他の歯科医院などの医療機関から、あるいは来院患者の方からのご紹介です。この事実から、当院は地域社会における歯科

術前にカウンセリングの時間をたっぷりとり、レントゲン写真も30枚ほど撮ったりして術前に全部把握できるようにしています。

菅井 信頼性の高いインプラントとはインプラント治療終了後、長期にわたり患者さんの口腔内で機能的・審美的要件を満たし、患者さんのQOLの向上に寄与できるインプラントだと思います。そのためには術前の正確な検査・診断が必須です。その結果を基に、最終目標のための具体的な治療法の説明、必要なコストなどについても十分な情報を患者さんに提供するわけですね。納得してもらえないような十分な情報を提供し、理解してもらえないと判断ができませんから、**丹野** 患者さんには、世界の最新の情報を提供するようにはしていません。それはメリットだけでなく、デメリットについてもです。そうしたオープンな情報の提供が信頼性につながるのではないのでしょうか。インプラントについて最大限の勉強をして、最新の知識を覚えることが、患者さんの信頼感を高めることにつながると思っています。

西川 インプラント治療では、情報は最大限に集めることが大切ですね。その上で、患者さんに合わせて情報を提供し、経済面なども考えてゴールを設定します。要は、その人にとって最適な位置はどこなのかを自分の能力の中で考慮することです。そうしたゴールを設定した上で、インプラントは必要

最低限の量にするというのをモットーにしています。

菅井 治療はシンプルにしたいですよ。本当にこれが必要かを考えて判断することが大切です。

エビデンスに基づいた患者と向き合った診療

丹野 本当にインプラントが必要かどうか、客観的に考えるようにしています。治療には流行があるのですが、それに流されないよう自覚心を持つことも大事です。

深沢 日本の歯科医師の中には、1日か2日のコースを学んでインプラント治療を行う者がいます。インプラントが折れて、患者さんからクレームがきたという話も聞きます。しっかりとしたトレーニングを積まないと、インプラント治療はできません。そうした体形付けでインプラントの勉強をするのが大事だと思います。

福島 大切なのはエビデンスに基づく診療です。最新の治療方法や材料に関しては、必ず情報を押さえるようにしていますが、世界

中の多くの先生により長期的で効果的と検証された治療方法を提供するようにしています。

森岡 患者さんときちんと向き合わなければと思っています。大切なのは人と人との付き合いです。自分でやった治療は、最後まで自分で診ないとダメです。このため、患者さんが定期的に来院するため、環境づくりを心がけています。敷居が高いのでなく、気楽に来院いただければと思っています。

飯山 治療結果が良い場合、もしくは満足度が100点でなかった場合でも、どうしてそのような結果になったのかを、最新の情報やエビデンスに基づいて反省するようにはしています。また、日々勉強をすることにより、最新の情報の習得と、情報の選択ができるようになるがけています。すべての情報に正しいとは限らないですから。

村木 私は、信頼というのにはやはり、一人ひとりの患者さんに対して、一人ひとりの患者さんに対して、誠実に対応していくことの積み重ねからしか生まれないものだと思います。イ

AD

代に教育プログラムもそうですが、卒業してからもしっかりフォローしているところにあると聞いていいでしょう。

丹野 現状の日本の教育でインプラント治療をするのは不安だったため、NYUのインプラント科のような最新のところでプログラムを受けました。日本が危ないと思ったときに海外にわたってみたいと思ったわけです。坂本龍馬のように(笑)。

田中 歯医者は技術職だと思っ

きっかけがつかめました。

信頼性の高いインプラントとは?

田中 最近、インプラント治療の間風が取り上げられ、患者さんからの信頼が失われたといわれています。信頼性の高い治療を提供するためには、どうしたらいいでしょう。

林 インプラントの使い回しとかの話がありました。コストとアクセスとクオリティの3つが医療の理想だと思っています。患者さんのQOL(生活の質)の向上のためにコストを下げたらクオリティが下がるということを理解してもらい必要があります。それを患者さんに話し、理解してもらい必要があります。3つのうち選ぶことができるのは2つで、3つを同時に実現するのはむずかしいといえるでしょう。

菅井 インプラントの信頼性を高めるためには、痛みを極力抑え、手術回数を減らすことに頭を使いたいと思っています。このため、

術前にカウンセリングの時間をたっぷりとり、レントゲン写真も30枚ほど撮ったりして術前に全部把握できるようにしています。

菅井 信頼性の高いインプラントとはインプラント治療終了後、長期にわたり患者さんの口腔内で機能的・審美的要件を満たし、患者さんのQOLの向上に寄与できるインプラントだと思います。そのためには術前の正確な検査・診断が必須です。その結果を基に、最終目標のための具体的な治療法の説明、必要なコストなどについても十分な情報を患者さんに提供するわけですね。納得してもらえないような十分な情報を提供し、理解してもらえないと判断ができませんから、**丹野** 患者さんには、世界の最新の情報を提供するようにはしていません。それはメリットだけでなく、デメリットについてもです。そうしたオープンな情報の提供が信頼性につながるのではないのでしょうか。インプラントについて最大限の勉強をして、最新の知識を覚えることが、患者さんの信頼感を高めることにつながると思っています。

西川 インプラント治療では、情報は最大限に集めることが大切ですね。その上で、患者さんに合わせて情報を提供し、経済面なども考えてゴールを設定します。要は、その人にとって最適な位置はどこなのかを自分の能力の中で考慮することです。そうしたゴールを設定した上で、インプラントは必要

最低限の量にするというのをモットーにしています。

菅井 治療はシンプルにしたいですよ。本当にこれが必要かを考えて判断することが大切です。

エビデンスに基づいた患者と向き合った診療

丹野 本当にインプラントが必要かどうか、客観的に考えるようにしています。治療には流行があるのですが、それに流されないよう自覚心を持つことも大事です。

深沢 日本の歯科医師の中には、1日か2日のコースを学んでインプラント治療を行う者がいます。インプラントが折れて、患者さんからクレームがきたという話も聞きます。しっかりとしたトレーニングを積まないと、インプラント治療はできません。そうした体形付けでインプラントの勉強をするのが大事だと思います。

福島 大切なのはエビデンスに基づく診療です。最新の治療方法や材料に関しては、必ず情報を押さえるようにしていますが、世界

中の多くの先生により長期的で効果的と検証された治療方法を提供するようにしています。

森岡 患者さんときちんと向き合わなければと思っています。大切なのは人と人との付き合いです。自分でやった治療は、最後まで自分で診ないとダメです。このため、患者さんが定期的に来院するため、環境づくりを心がけています。敷居が高いのでなく、気楽に来院いただければと思っています。

飯山 治療結果が良い場合、もしくは満足度が100点でなかった場合でも、どうしてそのような結果になったのかを、最新の情報やエビデンスに基づいて反省するようにはしています。また、日々勉強をすることにより、最新の情報の習得と、情報の選択ができるようになるがけています。すべての情報に正しいとは限らないですから。

村木 私は、信頼というのにはやはり、一人ひとりの患者さんに対して、一人ひとりの患者さんに対して、誠実に対応していくことの積み重ねからしか生まれないものだと思います。イ

AD



村木デンタルオフィス
院長 村木 宏
ニューヨーク大学5期生



医療法人社団
アップル歯科クリニック
院長 吉見 哲朗
ニューヨーク大学5期生



ヒロデンタルクリニック
院長 田中 宏幸
ニューヨーク大学5期生